

2 総合的な探究の時間「未来探究」(2 学年)

(1) マイプロジェクト

ア 目的

各教科、科目等で身に付けた見方・考え方を働かせ、地域社会における生活と SDGs との関わりの中で、主体的・協働的に課題を発見し、解決する過程を通して、自己肯定感や、着実に努力する姿勢・力を育み、地域貢献できる人材を育成する。

イ 対象生徒

2 学年 196 名

ウ 活動の概要

a 自分の興味・関心 (Will)・地域の課題 (Need) を知る【課題の設定】

マイプロジェクトサポート BOOK のテキストに沿って、まず、自分の興味・関心が何かを知るために「やりたいこと (My Will)」を 100 個書き出す活動を行った。100 個近く書ける生徒もいれば、なかなか筆が進まない生徒もいた。生徒の中で、自分の興味・関心のあるもの、好きなものへのハードルが高いため、「これを書いていいのだろうか」と迷っていたのだと思うが、「今、気になることは何なの?」「どうしてそれが気になるの?」と言った対話からヒントを得て、興味・関心のあるものを見つけさせた。

さらに、100 個書き出したものから 8 つキーワードを選択し、そこからマッピングシートを使って自分の興味のあるものを深堀したり、自分の興味・関心のあるものが社会とどのようなつながりがあるのかを考えさせたりして、課題設定の足掛かりとした。

Will を知る作業を行った後、昨年 1 学年の時に実施した「未来探究」について「山北町編」「未病編」「地域防災編」に分けて、それぞれの単元においてどのような課題があるのか振り返りをさせた。

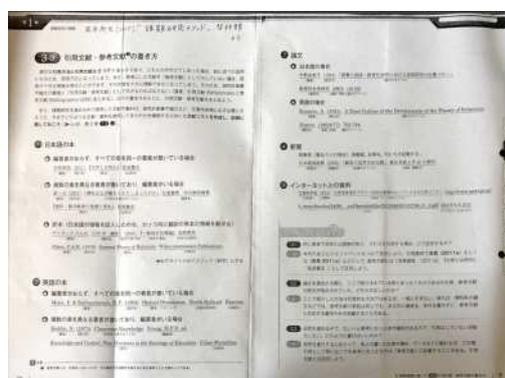
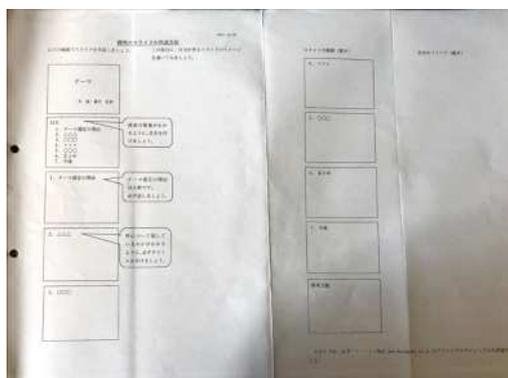
b マイプロジェクトの課題を設定する【課題の設定】

Wwill や Need の作業の中で出てきたキーワードから 1 つ選び、そのキーワードについて「こうだったらいいのに、と思う【つくりたい未来】と「どうにかしなければ、と思う【気になる現状】」といった点で生徒たちに考えさせ、マイプロジェクトのテーマを設定した。マイプロジェクトのテーマを設定する際には「●●を実現するためには?」や「●●を解決するためには?」など具体的に文章で記入するように声掛けを行った。次に、設定したマイプロジェクトのテーマをさらに具体化・理解するために小さな問いを設定させた。その際も「健康とはどういう状態を指すの?」「これは誰が対象なの?」等、本質的な問いをすることを心がけて声掛けを行い、生徒自身の「小さな問い」をたてる参考にさせた。生徒たちは「小さな問い」がたてられたら、それに関して情報収集を行い、一度たてたテーマを再考させ、マイプロジェクトのテーマを設定した。

c ゼミに分かれてテーマを深める【情報の収集 整理・分析】

2 学期からは 2 学年全員を 12 のゼミにランダムで振り分け、各ゼミの担当教員が 12 月の発表に向けて指導を行った。ゼミの進め方としては基本的に、初回の授業で生徒それぞれの問いを確認し、どのような方向性でプロジェクトを進めるのかを一緒に考え、プランニングした。2 時間目から本格的にスライドを作成する生徒がスムーズに取り組めるように、【資料

I】と【資料Ⅱ】のプリントを配付し、スライドの作り方や、参考文献の引用の仕方などを生徒に示した。



以上のような進め方はあくまでも基本的な流れであり、マイプロジェクトの進め方に慣れていない教員に向けたものであるため、ゼミの担当者がある程度自由にマイプロジェクトを行えるように、担当者の裁量に任せてマイプロジェクトの指導は行っている。

d 2 学年マイプロジェクト発表会【まとめ・表現】

11月12日（金）と11月19日（金）の2週に分けて発表会を行った。11月12日（金）はゼミ内発表として、ゼミ毎に全員が発表を行った。そしてゼミの代表者を選び、選ばれた生徒（13名）は11月19日（金）のゼミ代表者選考の発表会で2学年全員の前で発表を行った。12月の代表者発表の舞台を想定し、マイクとスライドの画像をスクリーンに映し、本番さながらの状況でゼミ代表発表を実施した。その際の発表者のタイトル一覧は、【資料Ⅲ】の通りである。

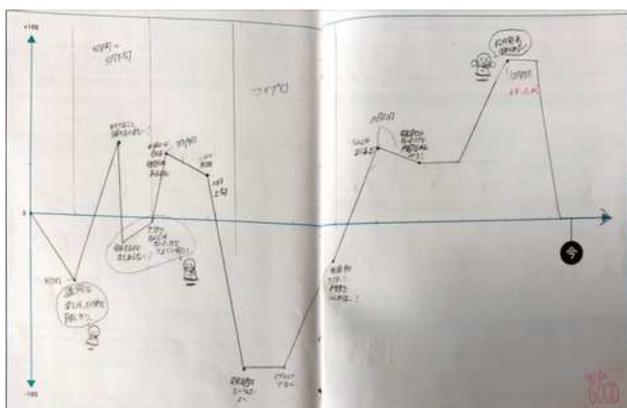
11月19日（金）の代表者発表を受けて、生徒からは、「話し方やスライドの見せ方が参考になった」「自分自身のアイデアをしっかりと言えていた」「アンケートを取っていてよかった」等、今後のマイプロジェクトの参考になったという意見が多数見られた。また各ゼミ代表に選ばれた生徒も「大勢の前で話す機会が今までなかったので良い経験になった」等、代表生徒自身も自身の成長を感じられる良い発表会となった。

発表タイトル
運動と健康
犯罪被害減少を目指して 少子高齢化を防ぎ明るい町にするためには？
フードロスについて 高齢者が元気に外に出ることが出来る社会
山北高校を存続させるためには
ホラーで町を活性化させよう 不法投棄が少ない町を実現するには
がんを治して健康に暮らそう 若者が都心部から離れた町を盛り上げていくには
高齢者と運動 高齢者の事故を減らすためには 若い世代に文学の魅力を広めるためには

【資料Ⅲ：代表者発表テーマ一覧】

e マイプロジェクト振り返り【振り返り】

3学期の始めに、これまでのマイプロジェクトの取組を振り返った。マイプロジェクトサポートBOOKのモチベーショングラフとまとめシートに取り組みさせた。【資料Ⅳと資料Ⅴ】



【資料Ⅳ：モチベーショングラフ】

変化-成長1	4月10日～5月10日 挫折に陥って涙ぐみましたが、でも乗り越えられました。
変化-成長2	11月～ 決まっていたことに気づき、自分のペースで進めたいと、 課題をこなした。少しは楽しく練習もたりへんたことし、 少しは楽しめた。
変化-成長3	12月(金) 朝の何らかの理由で11月の発表の返せと、少しはできて 発表できた。ほっとした。
まとめ	発表してみんなの感想を聞くと、とてもよかったこと だなと思えました。調べて覚えるという事はとても楽しいなと 思いました。
今後の目標	発表に向けて準備は進めたいです。 3学期には、2、3の発表したいです。

【資料Ⅴ：まとめシート】

モチベーショングラフは【資料Ⅳ】の通り、1年間のマイプロジェクトを進めてきてどのような時にモチベーションが上がったり、下がったりしたのかをグラフに可視化したものである。まとめシートは【資料Ⅴ】の通り、モチベーショングラフを参考にして「なぜその時にモチベーションが上がったり、下がったりしたのか」を考え、自分自身の性格や行動について良く知る材料となった。モチベーショングラフは、大きく上下する生徒、平たんな生徒、どんどん下降する生徒や上昇する生徒など多種多様なグラフを描いていた。

エ 成果及び評価

生徒が自分自身の興味・関心のある事柄に基づいて探究課題を設定していたので、生徒主体の活動ができた。特にテーマによっては、アンケートによる調査がより効果的だと判断し、自主的にアンケートを取ったり、実際に企業に電話したりして、マイプロジェクトを進めていた。

また、今年度はグループ発表を極力減らし、個人で発表する機会を多く設けた。その結果、グループ員の意見に乗っかる「フリーライダー」がほとんど見られず、生徒一人ひとりが自分の力で情報収集、分析、アイデア創出、発表を行うことができた。

オ 今後の課題

a マイプロジェクトについて

2学年は自ら興味・関心のあるテーマで探究を行う「マイプロジェクト」を行う段階であるが、単に自ら興味・関心のあるテーマだけではなく、それが地域や社会にどのように貢献できるのかを示して欲しいと生徒に最初に伝えたところ、本当に興味・関心のあるテーマを選ぶ生徒もいるが、地域や社会に貢献しやすいテーマであるために選ぶ生徒が一定数いた。また、興味・関心がないと言い、テーマ設定に時間がかかり、ずっと考え込んで、なかなか進まない生徒もいた。

他にも、テーマは設定できたが、それを解決する解決策がありきたりなものになってしまい、独創性や生徒のオリジナリティを感じられるレベルまで至らないケースもあった。このような点において、今年度のマイプロジェクトは本当に「マイプロジェクト」になっていたのかについて、今後は分析していく必要がある。

今後もマイプロジェクトを実施していくのであれば、マイプロジェクトのテーマ設定を

個々に応じた形で丁寧に行うことが課題となる。あるいは、課題の設定の仕方として、生徒の興味・関心のあるものから課題を設定するよりも、ある程度こちらの方で、ルールを敷き、その中から興味・関心のある事柄を生徒が選んでプロジェクトを進めていく方法も検討する必要がある。

またテーマが決まった後、本格的に探究活動に入っていく段階で、他者とのコミュニケーションや様々な文献に触れることによって、よりテーマを深化させたり、独創的な解決策を生み出したりと他者との対話を心がける必要があると感じた。

b フィールドワークについて

今年度、マイプロジェクトの方でフィールドワークを十分に行えなかったので来年度に引き継ぐことが課題である。フィールドワークに関しては昨年度からの課題にもなっているが、フィールドワークの実施の仕方(フィールドワーク先の検討や日程調整など)のノウハウをほとんどの教員が持っていないため、そのようなノウハウを身に付け、教員間で共有する必要があるように思う。また、フィールドワークを行う上での生徒への指導等も十分に行わなければならない。生徒にとって実りがあり、さらに成長できるようなフィールドワークの場を設定することが今後の課題でもある。